本紙は女性による平和と平等を推進します

回覧 □□□□□□□

発行所
全国婦人新聞社
〒160本社東京都新宿区西新宿
3-7-28 宝幸西新宿ビル
電話 03(343)1846(代)
FAX 03(348)1890
振替口座 東京(5)172320

全国婦人新聞

ご購読料
1年 4,500円
(郵送料900円を含む)
現金・切手・振替で前納
月3回発行
10日・20日・30日

《品質本位》のうすくち
東
うすくち
ヒガシマル醤油
＊ヒガシマル醤油株式会社

再就職めざす女性へ指針

横浜女性フォーラム

あきらめず「挑戦」を

受講によって大きく変身

「講座ルトラヴァイエ」一〜二期分の結果発表

昨年九月開館した「横浜女性フォーラム」（有馬真喜子館長）は、開館以来、再就職をめざす女性のために「講座ルトラヴァイエ」を三期にわたって行ったが一期、二期の実施分の結果を、このほど発表した。

ルトラヴァイエの講座風景、テーブルを四角に並べ向いあって授業する

企業からの関心高まる

49歳でパートから正規社員になった人も

これによると▽講座の定員は一期につき二十五人だが、毎回二〜三倍の応募があった▽受講者は三十五〜四十四歳が全体の七割弱。八割が有配偶者▽学歴は高く、短大卒以上が七割（大卒四割）▽七割以上の人が過去に二年以上の職業経験を持っているが、五年以上職業中断のある人が七割、十年以上が四割というのが受講者のプロフィール。

同講座は直接の就職のあっせんはせず、就職決定のプログラム作りを助け、相談に乗るだけだが、一、二期四十八人の受講者の講座終了後の状況は、就職三十人。資格取得のため勉強中七人。残りが求職中。就職者の内訳は、フルタイム十三人、パート十三人、在宅（フリー）四人。

「講座ルトラヴァイエ」はフランスで、一九七三年社会学者エヴリーヌ・シュルロさんによって創立されたルトラヴァイエ協会の再就職女性を対象とした講座の手法をとりいれ、日本的な内容を少し加味している。

講座は連続二十五日間（のべ八十五時間、朝九時半から十二時五十分まで）行われるのが特徴で、プログラムの前半は〝さび落し〟。自分の中に眠っている能力や適性の発見、確認のための練習問題に取り組む。後半は、講義やワークショップで、職業社会の情報を得る。OA機器の取り扱い実習等もある。

フランス版にはない授業で、〝生活時間点検表・ライフサイクル表〟という時間がある。日本の主婦は、家庭責任を一人で背負ってしまいがちなので、家族のあり方を含めて働く目的を問い直し、一日の過ごし方を見直す。こうした作業の中で根強い〝役割分担意識〟も見直すのだ。そして最終段階で、受講者は進路決定計画表の空白を自分で埋める。

この講座の主なねらいは、働きたいとは思っているが、どうしていいのかわからない、といった人びとを主対象にし、目標をはっきり持っていて自分で就職活動のできそうな人や、何かしたいが地域の活動でも就職でもかまわないといった人は遠慮してもらっている。受講料は一万八千円（事情により減額）。

受講の間小さい子どもはフォーラムの保育室であずかるが、二、三日は子どもたちが泣いて、親子の別れが大変。それが見る間になれて来て、終了のころは、これが同じ人かと思うほど変わってくるという。

さて、終了後だが、フォーラム側でも意外なほど就職がうまく行っている人が多い。例えば◇三十三歳、子供一人、母子家庭＝中堅企業の社内報PR担当正社員に。◇三十八歳子供二人、ブランク十五年＝社会福祉法人ケースワーカー。求人は二十歳代の男子ということだったが挑戦した結果、若い男子をおさえて彼女が選ばれた。◇四十歳＝ブライダルコンサルタントに。

教訓は、求人票に二十歳代などとあってもあきらめないこと。挑戦してみれば求人側はチャンスは与える（会ってくれる、試験を受けさせる）し、多くの人が職をかちとった。条件の悪い四十五歳以上の場合、正規が無理なら、パートでもまず職につくことをすすめている。パートで働くうち四十九歳で正規社員になった人もいる。

企業からの関心は強く、フォーラムでも予想していなかったことだが、直接求人募集も来ている。ただ、給与は初任給レベルで決して高いとはいえない。十二、三万円からせいぜい十七万円くらいまで。この問題は、日本の産業の構造を変えないと、フォーラムの努力だけではどうにもならないようだ。

立ち上がる父母

子どもの人権と体罰考えるシンポジウム

250人が参加

さまざまな実践報告が出され、盛会だったシンポジウム

いま、教育現場での「管理教育」は想像を絶するほどだ。服装や髪型、学校生活以外のことまで細かく定めた「校則」、教師の「体罰」など「管理教育」の中で、子どもたちはますますきゅうくつに、生きにくくなっている。

「子どもの人権と体罰」研究会（東京）と体罰と管理教育を考える会（大阪）では、先月二十五、六の両日、東京・水道橋の全逓会館で、第七回「子どもの人権と体罰を考える全国シンポジウム」を開催、約二百五十人が参加した。

〝立ち上がる父母・市民—九〇年代に向けて—〟をテーマとした今回のシンポジウムでは、全国の父母、先生、市民が、子どもの人権を基本にすえたさまざまな取り組みを紹介、地道な活動が実を結んでいることが報告された。

神奈川県厚木市の母親、塚本みゆきさんは、小学校の女性体罰教師を転校させた経過を話した。

三十九歳のこの教師は、五年生のクラス担任となった当初から、子どもの人格を傷つけたり、学習意欲をそぐような差別的な発言が目立ち、あわせて長時間の正座、ビンタ、ものさしで打つなど、体罰もひどかった。

テストの点を公表して、みんなの前であざけり、答をまちがうと「頭がおかしいんじゃないの」と言われたりしたことから親に「どうしたらきれいに死ねるの」と真剣にたずねる子どもまで出てきた。また連絡ノートに書かれたことをもとに、その子にあたるなどの事実が、子どもの口から明らかになったことから、塚本さんら数人の母親が、六月初めから話し合いをはじめた。

七月に入って学校側と話し合い。学校側は、学年主任と担任が出席。担任は「現場にいない親に何がわかるか」と一しゅう。塚本さんらは資料を作成、十日後に再び校長を含めた学校側と話し合ったが、結論は出なかった。

二学期に入り、教師の体罰はエスカレート。しかも特定の子どもに集中して行われるようになったため、体罰を受けた子どもの父親が体育の授業を監視したりした。十月に父母会と授業参観。校長と二度の話し合い…。

父母たちは、暴言や体罰の様子、学校との話し合いの内容など、事実関係を正確に記録した資料を作り、ねばり強く交渉をつづけた結果、この女性教師は長期療養休暇ののち、翌四月一日付で同市内の小学校へ転任していった。

「感情を押さえ、事実だけを正直に記録した資料をもとに、根気よく話し合ったことがよかった」と塚本さんは語るが、教師の教育権を尊重しながら、子どもの人権を守ることは、なかなかむずかしいことである。

「問題は、子どもの人権の基本をしっかりとらえることではないでしょうか。いずれにしても、子どもが人権侵害を受けたら黙っていないで、ねばり強く話し合うことです」と話した。

鹿児島の父親は、公立小学校の標準服着用基準（白シャツ、紺ズボンかスカート、紺の上着、白のソックス、白の運動ぐつ）を撤回させたこと、千葉県流山市の市議は、市民とともに公立中で男子の丸刈り強制をやめさせたことを報告。「子どもが在学中に、学校に物申すのは勇気がいるが、数人でも仲間を集めて問題を公然化すること。それと、議員を通して行政の事情を知ることも大切」とアドバイスした。

また、埼玉県与野市の公立中教師は、全職員が八五年から体罰克服に取り組み、八八年二月の職員会議で「体罰・暴力根絶宣言」をするまでに至る経過を報告。「子ども主体の教育観をもった教師が多く、民主的教育の積み重ね、理解ある管理職がいたことなどが成果の要因だが、それでも三年か [illegible] 述べた。

会場からは、こ [illegible] 一方で、いかに体 [illegible] どもを管理する [illegible] 業で黒板を一発た [illegible] とか、弱い男の [illegible] めのためにいじめ [illegible] とが、教師の研修 [illegible] 話されている」と [illegible] も出たが、「実践 [illegible] れた」という母親 [illegible] 師も言いたいこと [illegible] 作ろう」などの意 [illegible] な管理教育から子 [illegible] め、活発な討論が [illegible]

※母と子社から [illegible] 権—立ち上がる父 [illegible] 五百円・税別）が [illegible] シンポジウムでの [illegible] め、子どもの人権 [illegible] 立ち上がった二十 [illegible] 践を集録している [illegible] 〒203東京都東久留 [illegible] —4—8「母と子 [illegible] 24・74・91 [illegible]

婦人手帳

☆★ [illegible] る町に [illegible] した。 [illegible] ブルド [illegible] て、本 [illegible] 地肌は [illegible] 無惨な [illegible] づくり [illegible] うことだった。本 [illegible] いる山の隣の山な [illegible] 山もゴルフ場に [illegible] に。「県全体では [illegible] だが、市町村段階 [illegible] ある町に集中した [illegible] ことだった。

★☆★なるほど [illegible] は駅から車でしか [illegible] く、決して便利と [illegible] だが、ハイウェイ [illegible] 家用車もちのゴル [illegible] なかの場所だろう [illegible] の周辺は値が上り [illegible] あたりがゴルフ場 [illegible] う。「このあたり [illegible] ていたって金がか [illegible] ふつうなら買手を [illegible] 文。札束つまれた [illegible] よね」「こんなと [illegible] 場だって、会員に [illegible] 万円とか、大変な [illegible] こにそんな金があ [illegible] ねえ」。

☆★☆駅まで遠 [illegible] は幹線でない町の [illegible] 走りにくい。そ [illegible] っくりかえした土 [illegible] ているからだ。一 [illegible] とったあとですよ [illegible] だった。この砂利 [illegible] ル街を築いている [illegible] 体これで大雨でも [illegible] なのか、たちまち [illegible] のでは、と恐ろし [illegible] だん東京にいると [illegible] が、地方に出ると [illegible] 〝国栄えて山河な [illegible]

★☆★地方の [illegible] れ、都市には摩天 [illegible] つ。ビルの夜景は [illegible] が、関東大震災ク [illegible] 来ればどうなるの [illegible] だから大丈夫、と [illegible] い階で火災が発生 [illegible] 電気や水がとまっ [illegible] たら肌が寒くなっ [illegible] と切り離された文 [illegible] てホンモノなのだ [illegible] ちが繁栄と思って [illegible] ビル群、私たちは [illegible] ベルの塔〟をつく [illegible] はないかという〝 [illegible] る。だがこの国を [illegible] トたちは〝おそれ [illegible] いるように見える [illegible]

海外通信

ジュネーブ＝④ 太田 緑

保存食が豊富な国

食糧の備蓄が義務に

みどりのジュネーブ生活体験記

パエーリャを作る、鍋の大きいのにはびっくり

「アァーア、またスイス・ヨーグルトが出来ちゃった」。

朝、ミルクを飲もうと冷蔵庫から出した牛乳は、トロリとした液体になっていました。カナダでは、低温殺菌の牛乳（パスチャライズド・ミルク）は自然食品店などだけに、昔ながらの瓶詰めで売られていましたが、ここスイスでは、普通のスーパーで、紙パックに入れられて売られています。ここでは、冷蔵もされずに、無造作に積まれているロングライフ牛乳の側に、低温殺菌の牛乳やクリーム類が、冷蔵ケースの中に並んでいます。

値段はさして違わないのですが、三カ月も持つので買物かごの中は、殆どロングライフが占めている様子です。三日で悪くなる牛乳を飲みつけると、いつまでたっても悪くならない牛乳の不自然さが気になります。

「これ、食べたら死ぬかなぁ」と少々うらめしく思いながら、ヨーグルト状と化した牛乳を捨てる私。多分、食べても大丈夫だと思うのだけど。まだ〝人体実験〟には及んでおりません。

料理にだったら使えるかな？ サワー・ミルクってのもあるくらいだから、平気だよね…、と三回に一回は、消費しきれずにヨーグルトにしてしまい、うらめしく思います。〝もったいないおばけ〟が出たらどうしよう。

スイスでは、有事に備えての食糧の備蓄が国民の義務になっているせいか、保存食の種類が豊富です。ロングライフ牛乳が好まれるのも、そうした保存に耐える食糧だという意味もあるのかもしれません。各コミューンには緊急避難用の防空壕があり、そこには各コミュニティーに所属するスイス人に充分な生活スペースと食糧・水があるとか。外国人には、その場所を教えないのだ、といった話しも聞きました。私の住むアパートの地下にも、シャワー・トイレといった緊急施設と空気清浄器などが設置されています。核戦争に備えているのだとしたら、多分に陳腐な気がしますが。

☆ ☆ ☆

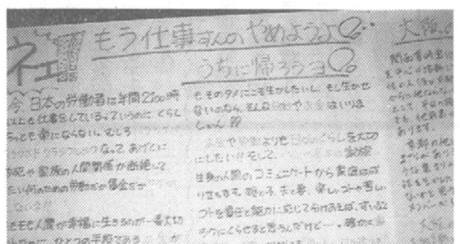
先日、同じ職場で働くスペイン人の秘書が、パエーリャを作るからと、自宅に招いてくれました。鶏肉や海老・貝などをふんだんに使ったこのスペイン風炊き込みごはんは、私の好きな料理のひとつなので、ふたつ返事で出かけました。料理の本などで作り方は、一応知っているものの、なにせ料理自慢の彼女のお母さんが作るというのですから、私はもう台所にいりびたり。調理台の上には、直径六〇㌢はあろうかという、パエーリャ鍋がガス台にのせられて置いてあります。骨つきチキンなどでしっかりとっただし汁が、ぐつぐつと音をたて、ダイナミックに米をひとり分、ひと握りの割合で振り込んでいきます。海老を殻のままで放射状に並べ、あさりやムール貝を加えます。レストランなどで、少人数用の鍋は見た事がありますが、これだけ大きいとやはり迫力があり、おいしかった…。

「均等法」を検証する

知らせたい女たちの三年

シンポジウム会場

広告の中の女と男。巷にあふれるポルノポスターウオッチング



関西育時連の展示

【大阪】このほど北区民センターホールで「検証・均等法、知りたい、知らせたい女たちの三年」が行われた。このシンポジウムは、均等法が施行されて四年目に入り、均等法がどのように役立っているか、募集・採用・配置・昇進・賃金・定年・解雇などに変化があったか、などを検証し、今後、女性がしなやかに働き続けるための知恵を、多くの女たちの証言からつかみとろうというものである。主催は「労基法改正と真の男女平等をめざす大阪連絡会」で、働く女性や男性が百八十人参加した。

募集・採用については、女子大卒の就職実態調査をもとに、依然として女子大卒者への差別が強いことが報告された。

配置や昇進、賃金等については、コース別管理が導入された結果、女子を総合職に採用する企業は少なく、たとえ総合職のコースに乗ったとしても、現在の労働状況では結婚、出産などで、女性は仕事がますます続けにくくなっている状況が指摘された。

正社員と同じ仕事であるにもかかわらず、経費を押さえるために有期（期限付き）社員として採用、二十五歳で解雇し、男子との給与差がはげしいある民間放送の例や、世帯主は男子のみとし、家族手当に大きい男女差のある自動車会社など、均等法の違反のひどさが多くの女性たちから報告された。

休憩の間、パネル展示コーナーでは、目で見る男女差別の実態として、巷にあふれるポルノポスターや、広告の中の女と男の性差別がところ狭しと展示された。特に目をひいたのは「関西育時連（仮称）」の「夜も仕事すんのやめようよ」「子供は二人で作るんだから、二人で育てるとらくちんだね」「男も育児時間が欲しいのだ」というアピールで、子供連れの若い父親が会の主旨を熱心に説明していた。

次いでフロアーから活発な現状報告が行われた。

『商社の女性はいまPARTⅡ』を発行した商社で働く女性は、均等法以降、仕事や出向は男性なみになったが、給料は男性の半分に抑えられ、評価は補助職のままであること。銀行で働く女性からは、週休二日制により平日勤務時間が延長され、子どもの保育所の迎えが間に合わなくなった。五時に帰れる体勢を銀行に求めたところ「近所に頼める人は?」「親は?」「保育所のそばへ引っ越せば?」など働く女性への無理解な対応に、仕事と家庭を両立させることがいかに困難な状況であるかという訴えが出された。

パート勤務についても、派遣労働がある限り状況はよくならないのではないか。パートや派遣労働の下に外国人労働者が置かれ、弱者はますます無力感をつのらせているという発言もあった。

まとめとして、本多淳亮大阪経済法科大教授が、「三年が経過して、均等法の実態が現れてきた。男コース、女コースではないと言いながら、実態は男マークが厳然として残っている。OJT（ON THE JOB TRAINING）の機会を男女平等に与えること、同一価値労働には同一賃金を、日本も確立すべき時に来ており、欧米に習って実効性のある罰則規定を設けるべきだ」と述べた。最後に場内からの「今後も手をつないで頑張ろう」という呼びかけに大きな拍手が起こり、シンポジウムを終了した。

（高嶋 紀子記）

教育史料出版会
養子家族ストーリー
三人のわんぱく坊主子育て記
野口佳矢子
●1300円（税別）
いまが人生の花 仕事と子育てを生きる
監修＝かこさとし・樋口恵子・増田れい子
全国私立保育園連盟編
●1200円（税別）
東京都千代田区三崎町1-2-2 ☎03(291)3571

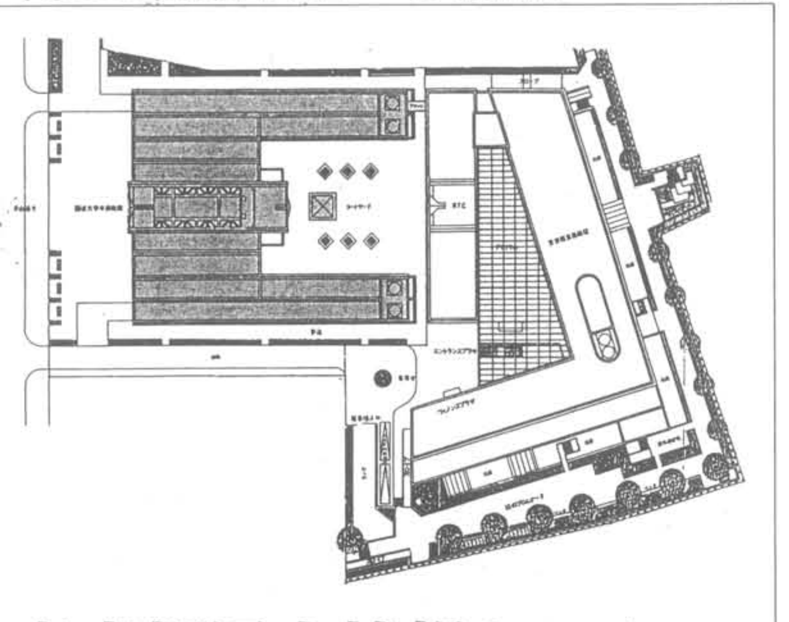
斎藤茂男取材ノート
全5巻
10月上旬刊行開始
予価各二五〇〇円
同時代人へ贈る熱いメッセージである。
築地書館
〒104 東京都中央区築地2-10-12 ☎03(542)3731 fax03(541)5799

サンデー毎日増刊
発売中●定価400円(税込)●毎日新聞社
入試情報はこの一冊で決まり!!
どう変わる'90入試展望と対策
「新テスト導入で入試戦線はこう変わる！」
'90入試全国ブロック別大学・短大入試データ
TOKYO CAMPUS IN
〒100-51 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 振替東京4-56534

いま、なぜ、丸山博か
丸山博著作集
全3巻
—生命を衛り未来を拓く運動を担う方々のために—

農文協の話題の本
〒107 東京都港区赤坂7-6-1 ☎03(585)1141
●内容見本呈 全婦係へ
子どもと原子力発電所
自然食は安全か
この国は恐ろしい国

いま甦える先達の知恵、大正・昭和初期の庶民の食文化！
おばあさんから受継ぐものは、こんなに豊かで素晴らしい！
聞き書 愛知の食事
第2期刊行開始
聞き書 山口の食事
聞き書 千葉の食事
好評発売中！



東京都婦人情報センター

ウィメンズ・プラザ完成と同時に移転消滅？

飯田橋存続望む声高まる

近くて、安くて、便利が良い——と、利用者に評判の、東京・飯田橋の東京都婦人情報センターが、一九九二年、東京・青山に建設予定の、東京ウィメンズ・プラザ完成と同時に移転消滅する予定だ。

かねてより、婦人団体や女性グループらが、〝東京・ウィメンズ・プラザができても、飯田橋を残しておいて欲しい〟と請願、要望などを、東京都に提出し続けているが、今のところ、計画の変更はない模様だ。

このほど、東京都では同プラザの設計図を公表、東京・九段の東京区政会館で説明会と意見交換会を開いた。意見や質問は飯田橋存続に終始した。出席したのは、女性団体のメンバーら。

同プラザは、「男女の平等と共同参加の豊かで平和な社会を首都東京に実現することをめざす拠点で、あらゆる都民に開かれた、出会いとふれあいの〝ひろば〟」という基本理念のもとに建てられる。国連大学研究センター等の複合施設として新設の予定だ。プラザの総面積は、四六九九平方㍍。この中に、多目的ホール、ひろば、会議室、ワーキンググループ、講師控室、保育室、図書資料室、情報ルームなどが設置されることになっている。同プラザの運営は、第三セクター方式となるため、施設の利用は、当然有料となる。

施設の概要が説明され、「何か改善した方がいいと思われる点があったら、その意見を聞き、それをまとめてとり入れたい」と都側からのことばに対し「国連大学のスミにちょこっとあるなんてバカにしている……」「公設民営にした理由は？」「今日、初めて設計図を見せて意見を言えなんて、失礼千万。本当に意見をくみ上げるなら時間をよこすのが義務」「最大の使い勝手は無料であること。有料になると主婦の立場じゃたびたび使うわけにいかなくなる」「飯田橋の存続は？」「センターが閉館されると、その予算はどうなるのか」といった。プラザに対し難色を示す質問が続出。

これに対し、都側は「有料の額も決まっていないし、予算も決まっていない」「基本構想にそって設計したから」等々、かみ合わない〝答弁〟をくり返し飯田橋存続については終始無言。平行線のムードで終わった。

東京ウィメンズ・プラザは、九月の都議会で承認されると、九〇年九月、着工される。

（カットはウィメンズ・プラザ設計図）

映画を通して学ぼう

岩波シネマ・カルチャーサロンを開講　貴重な作品上映

（株）岩波映画製作所（以下＝岩波映画）では、創立40周年を記念して、『岩波シネマ・カルチャー・サロン』を東京・六本木の俳優座劇場で開講する。

映画を通して楽しく学び、愉快に語りあおうというもので、これまで、一般の人たちがなかなか見ることのできなかった貴重な記録映画を、年間、定期的に上映。その作品とかかわりのある講演やシンポジウムなどのイベントを組む。

映画は、A「日本の文化シリーズ」、B「社会の話題を探るシリーズ」、C「日本と海外の動物シリーズ」の中から、二作品を組み合わせて上映する。

同社では、このサロンを永続性のある上映の場にしたいと、入会者を募集している。

講座は、月、三回で平日の13時～15時までの2時間。

九月は、「食」がテーマ。日程は次のとおり。

9／18…映画①「中国の食文化」＝食は広州に在り＝（重森貝斎監督）、②「タンチョウツル親と子の絆」（早川正美監督）お話し＝「文化と食生活」（重森貝斎さん）、9／20…映画＝①「世界の食事と健康」（重森貝斎監督）、②「キリンの首はなぜ長い」（麻生保監督）お話し＝「食事と健康」（島根医科大学教授・家森幸男さん）、9／26…映画＝①「食」（播磨晃監督）、②「雷鳥・アルプスの四季」（片山龍峯監督）お話し＝「中国の食文化＝宗教的観点から＝」（お茶の水女子大学名誉教授・中山時子さん）。

申し込み・問い合わせは、ハガキか電話で、岩波映画事業部へ（〒113東京都文京区湯島3－19－11イトーピア湯島ビル☎03・5688・3551）。入会金…3090円、月会費…2060円（3か月以上前納）。

「日米女性ジャーナル」編集長

ホーン・川嶋瑤子さん

女性学の層広げよう

思想の貧困は教育の欠陥

アメリカのスタンフォード大学（カリフォルニア）の「女性とジェンダー研究所」研究員。

昨年、「日米女性ジャーナル」を刊行、すでに五号まで出し現在六号編集中。

「最初の一年は、年四回発行したのですが、どうにも無理で、ことしから三回にしました。なにからなにまで、たった一人ですから、大変！」

なにしろB5判で毎回百㌻以上ある冊子である。しかも内容も理論的な論文、インタビュー、時事問題の紹介、解説、資料紹介、統計等、女性問題の最先端を行くものである。これの企画、原稿書き、翻訳、テープおこしまで一人ですべてやり、その上、ワープロでレーザープリンターにうち出し、版を作る。印刷、製本は日本の業者にたのみ、できあがった本の発送は、川嶋さんの、七十二歳になるお母さんの秀子さんと友人の奥乃芳子さんのボランティアワーク、これでも毎号赤字が出る。

「日本の人に、女性学の最新の情報や理論を紹介したいと思ったんです。とても、必要なことと思うのですが、部数が伸びなくって。日本の女性学の層がうすいんでしょうか。もちろん宣伝が行き渡らないせいもありますがPRする資力もなくて」

都立戸山高から東大法学部へ。戸山高の定員は男3に対し女1、それをおかしいとも思わなかった。

フランスで、ユネスコの仕事をし、パリ大の教育学修士課程に行っていたが、なんとなく勉強が中途半端という思いで、一九七七年、アメリカに行きスタンフォード大学の大学院に入り、教育経済を専攻した。金はなかったのだが最初の一年間、アメリカ人の老夫婦が学資を出してくれた。

「アメリカ人は寄付が好きだからと、よくいわれますが、金を必要としているところに寄付する、というのは彼らにとって主張の反映で、単なる慈善ではないのです。ボランティアもそうです。日本ではボランティアというと、〝奉仕〟だけですが、これがアメリカ民主々義の基礎でもあります。イデオロギーも文化も、さまざまな人がいて、いろいろな対立がありながら、自分の姿勢を保っている……」

スタンフォード大学の石油工学の教授をしている夫（ニュージーランド人）と知りあい結婚。子どもが生まれ、休んだときもあったが、六年かかって一九八三年に修士履修。このときの体験を一九八五年に「飛躍する大学スタンフォード」（小学館）にまとめる。

「日本の大学とのあまりの差に、日本の教育はこれでいいのか、と思いましてね。小学校のときからぎゅうぎゅう勉強をつめ込まれた日本では、大学は息ぬき。アメリカの大学生は勉強しますよ。一日に授業が四時間、自宅での勉強が四時間というのがふつうです。そしてその勉強は、いかに分析や批判をする能力をつけるかです。日本の教育では現実に適応することだけがうまくなる。〝戦力〟にはなっても理念は育たない。現在のおそるべき思想の貧困は、教育の欠陥ではないでしょうか」

かたわら、女性の問題に興味をもち、大学でも「女性学」の講義をとり差別の意味を知る。

「エコノミスト誌」に女性の問題を連載。これが好評で、昨年、岩波書店から「女たちが変えるアメリカ」として出版された。

一方、日本の女性の現実を見る度これでいいのかと思う。日本企業の駐在員の多い町で、若い母が「男の子は泣かないの！」と子を叱っている。これを性差別と感じていない。この十年ほどのアメリカの男と女の変化に比べあまりもの差。自分で〝情報誌〟を出そうと決意した。

「アメリカでもフェミニズムは〝退潮〟という情報も流れているようです。たしかに七〇年代のような激しい女性運動は今ありません。しかし、これはフェミニズムの終えんではなく、運動の結果差別感がうすくなったということです。今アメリカでは管理職の三人に一人は女性、共働きの五組に一組は女性の方が高賃金です」

「アメリカは共働きを前提とした新しい労働形態を模索しているところです。同一労働、同一賃金だけでは差別を撤廃できないと、同一価値労働同一賃金の原則が検討されています。アメリカでは、伝統的に育児は家庭の責任と思われ、保育所や育児休暇の問題は立ち遅れていたのですが、これもいま、政策として叫ばれるようになりました」

「でも、日本の若い女性に結婚志向が強く〝男性に養ってもらう〟感覚が相かわらず強いのは困ったことですね。アメリカでは一家の収入は夫の役割と思う人は、夫の15％、妻の29％にすぎないんですよ…」

【「日米女性ジャーナル」送料こみ年六九〇〇円。〒156世田谷区上北沢三－一九－八日米女性情報センター　振替東京3－369960】

仕事を創り出した女たち　①

〝婦人の十年〟以降、働く女性が増えてきた。しかし、長い間、男性社会が創り出してきた壁は厚く、賃金差別、昇進差別、中途採用されるのは難かしく、しかも年齢制限があり中年以上の女性は、不安定な身分・低賃金のパートしか働く場がないというありさま。「仕事を創り出した女たち」では、そんな男社会のスキ間をぬうようにして、新しい発想や資格などを生かして、自分の力でビジネスを創りだし、しかも男性なみに働くのではなく、女性の新しい働き方で仕事を展開している女性たちを紹介していく。

仕事も、いまは順調

アトリエF

向って右から山田さん、大島さん（後方）、向田さん

地域と仕事を結ぶ

大阪の向田、山田、大島、温井、坂崎さん

50代女性の情報調査会社

男は仕事、女は家庭——の役割分業意識から、男も女も仕事と家庭を、に変りつつあるが、それでも一度専業主婦になってしまうと再就職の道は狭く、パートや内職のように低賃金で不安定な雇用身分のものや、さらに年齢制限の壁の厚さが加わるなど、その本人の資質や過去の実績のほとんどが無視されてしまう。

〝女だから〟という理由だけで働く場から締め出されがちな中で、ずっと専業主婦できた五十代の女性五人が、二年前「アトリエF」という情報調査会社を設立、それまで地域で学習してきたさまざまな成果を生かし、活躍している。

大阪市北区のビジネス街。二十三平方㍍の細長いマンションの一室に四脚の机、電話、ファックス、ワープロが取り付けられている。ここが向田貞子さん（五九）、山田芳子さん（五四）、大島美樹子さん（五五）、温井賢子さん（五五）、坂崎美智子さん（五五）のオフィス。

このパワーの原動力は、一見仕事とは無関係のPTA、自治会・公民館など社会参加活動をとおして養ってきた視点と、女性同士のネットワークの広さである。

五人が知り合ったきっかけは大阪府『国際婦人の十年』の充実をめざして開講した「大阪府婦人問題アドバイザー養成講座」だった。それぞれ学んだ期間は別々だったが、六年前に大島さんが修了生たちに呼びかけて作った「家族研究グループ」の仲間たちだ。

いままで自分たちが地域社会活動をとおして、夫は仕事一筋、妻は家庭と地域——という社会二分化構造に疑問をもっていたこともあり、この自主学習グループの中から、ごく自然な成り行きで「自分たちの学習を社会に生かしていこう」という声が上がり始めた。

しかし、〝生かす〟といっても具体策となると難しい。一カ月に一回の会合が二回となり、三回、四回に。暗中模索の状態が続いた。

こうした中、自分たちの学習成果を試す大きなチャンスがやってきた。大阪ミナミの心斎橋商店街が街の将来像の企画募集をしているのを知ったのだ。約十名で『これからの商店街は家族単位より〝個〟に焦点をあてたものに』、と報告書にまとめて提言した。それが約二百七十点の応募作の中から、見事優秀作の一点に輝いたのだ。

「この賞によって、私たちは生活情報や、そして地域に密着した大きなネットワークなど、働く女性が持っていないものを持っているのではないか、主婦の感覚、それも女性問題の視点を生かした仕事ができるのでは？と思い始めました」と向田さん。

最初は企画集団として出発した。時代も消費者ニーズの多様化によって、商品開発から都市空間づくりに至るまで、生活体験に基づいた主婦感覚が幅広く求められてきたこともあり、少しずつ仕事が入ってきた。イベントの企画、寝たきり老人の寝間着の市場調査……と。

仕事を引き受けるからにはオフィスも必要と、お金を出し合って現在のマンションを借りた。二年前に社会的責任を持つため、九人で十五万円から百万円の出資金を出しあい（合計五百万円）株式会社を設立させた。仲間の中には別な活動で忙しい人もいることから、向田さんを代表取締役にして実働者五名で再スタート。

現在、仕事の中心は女性問題、高齢化問題、福祉、教育など既成の企業活動からスッポリ抜け落ちた、つまりこれまで男性が参加してこなかった分野での調査、分析、集計。また大阪府主催の講座修了生ということもあって、行政からの依頼も多い。

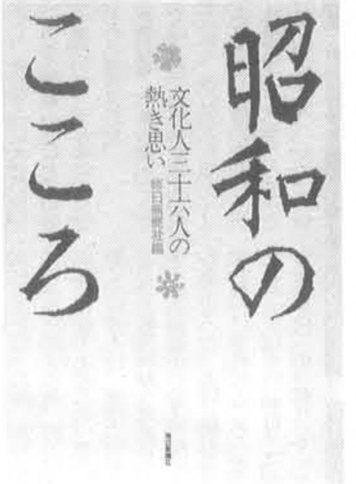
年商は、昨年から軌道に乗り始めて約一千万円。

しかし、会社が倒産してしまうと、女性の視点からの〝住みよい社会づくり〟をモットーとしたビジネス活動ができなくなってしまうので、一人の収入は日給月給で五万円ほど。スタート当初は時給百円だったから「これでも出世したのよ」と大島さんは笑う。

男性優位の企業は、何よりも利潤を追究するが、ここは適正利潤を適正規模、適正労働時間で、仕事の質を大事にしながら稼ぐ。それぞれがチーフとして一本の仕事の企画、構成のすべてを成し遂げるため、ときには力量不足で苦しむこともあるというが、「でも、いままで学習してきたことが仕事によってより育っていく、という手応えみたいなものはありますね」と山田さん。

仕事の基盤は社会活動と、そこで知り合った女同士のネットワーク。自分自身の生き方もより磨き込まれていくことから、五人で交代で休みをとって社会活動にも取り組む。現在、温井さんと坂崎さんの二人は親の老後介護で休暇中。いずれ、職場復帰することになっている。

「家庭・地域・仕事」。これまで男性社会では求めても得られなかった人間本来の生き方を「アトリエF」では実現している。



「昭和のこころ」文化人36人の熱き思い

毎日新聞社　編

「昭和」の終わりを機に、毎日新聞の「時代の目」欄に掲載された文化人二十三人の文章と、夕刊文化面に連載された十三人の人々の「昭和——私にとっての」の全文を一冊におさめたもの。大家から中堅までのそれぞれの思いが直截に書かれている。最終回に掲載されたという大岡昇平氏（昨年十二月二十五日死去）の文章は、昭和天皇重体の時点で執筆を依頼、結局遺稿となったものである。

さまざまな思い、考えが展開され昭和という時代の複雑さ、重さがのしかかる。おそらく、五枚や六枚の原稿では書ききれぬ感慨が、どの文章からもずしりと伝わる。だが、その中でも特に胸にせまるのは、フィリピン、タイ、韓国等、日本によってふみ荒らされた国々の人のものである。このアジアの思いを、どれだけの日本人が理解し、きちんとうけとめているだろうか。（毎日新聞社　千三百円税込み）

「私の街から戦争が見えた」

謀略秘密基地登戸研究所の謎を追う

川崎市中原平和教育学級編

川崎市は一九八五年から、平和推進のため、市民向け講座「平和教育学級」を行っている。中原市民館の学級に集ったメンバーがつくった本。「登戸研究所」の研究が半分以上を占め貴重な研究となっている。

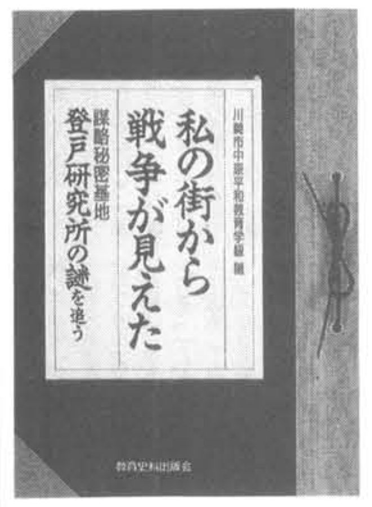
「登戸研究所」は、正確には陸軍第九技術研究所」という。現在の明治大学・生田校舎（川崎市多摩区）の地に敗戦まであったもの。いまも、近代的な明大校舎群にまじって、木造平家建の建物が十数棟残っている。「動物慰霊碑」もある。

この「登戸研究所」とは、陸軍の謀略研究所で、風船爆弾の研究開発から、細菌戦の研究、はてはニセ札、パスポート、紙幣の偽造までおこなっていた。しかしその実態はあまり知られておらず、付近の人たちもそこが何であったかよく知らない。

平和教育学級の受講生たちが、〝自分たちの町の戦争〟ということで登戸研究所を研究し、登戸研究所につとめていた人を捜し出し体験の収集につとめた。そんな中で、もとタイピストの人が、書類の副本を持っていることがわかった。それはタイプのうち方の参考のために重要でない書類を綴っておいたもので、秘密のものは何もないのだが、丹念に読みとるとなんでもない書類から、研究所の実態が読みとれてくる…。

七三一部隊にもつながる研究所の実態のおぞましさ。そして、こういう仕事を教育学級というしろうとの集団がなしとげたことの偉大さに感動する。

Ⅱ部は学級で、地域の人から戦争体験を聞いた中から三人の体験が収録されている。それぞれにすさまじく、考えさせられる。（教育史料出版会　千三百三十九円）



National

こだわって、
なにかと色にはうるさいのに、
「色を鮮やかに見せる
あかり」を、知らない
なんて、ホントは
こだわってない。

替えてみませんか。
色が鮮やかに引き立つあかりです。

黄ばみがとれた光で色をより美しく見せます。口金は2サイズ。しかも定格寿命はシリカ電球の約2倍。（当社比）

ナショナル
ネオピュア電球
〈グルメランプ〉〈ミニクリプトン〉
ネオジウムクリア、ネオジウムホワイト／標準価格（税別）〈グルメランプ〉60W 100W 430円
〈ミニクリプトン〉40W 60W 410円、75W 430円

松下電器産業株式会社

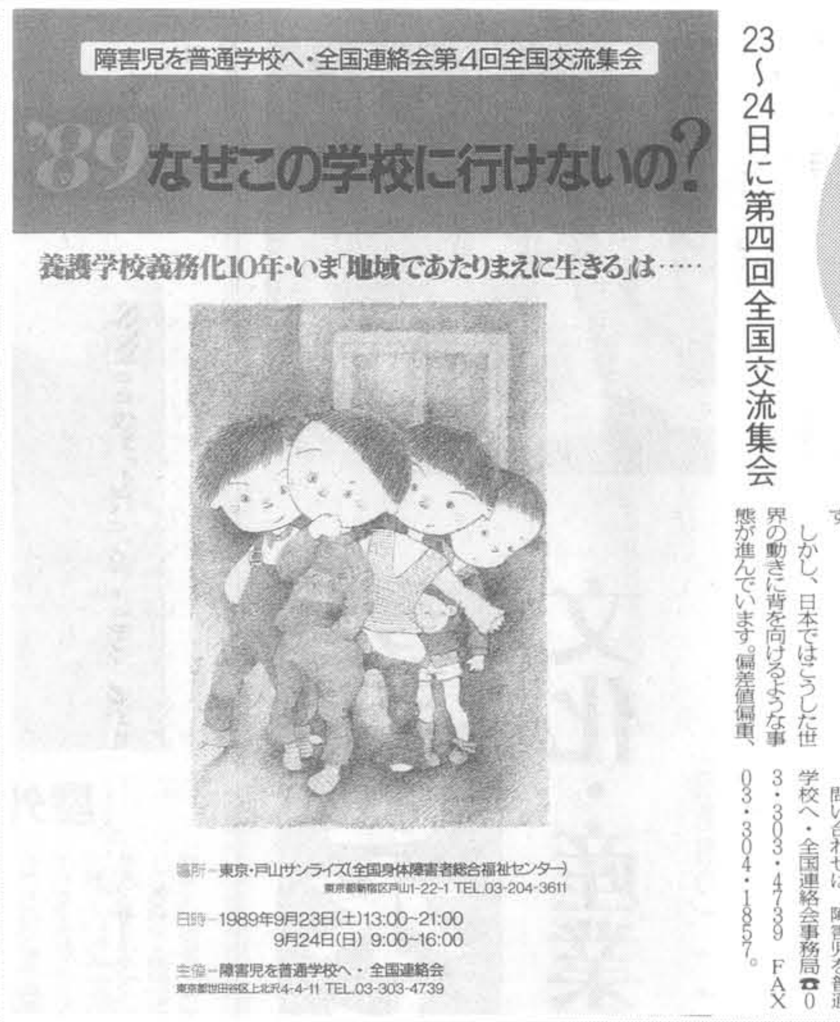
情報スクランブル
読者のひろば

みんなのページです。思ったことや、お知らせしたいことがあったら自由に利用して下さい—編集部

障害児を普通学校へ全国連絡会

23～24日に第四回全国交流集会

いま、地域であたりまえに生きる！



障害児を普通学校へ・全国連絡会第4回全国交流集会

'89なぜこの学校に行けないの？

養護学校義務化10年・いま「地域であたりまえに生きる」は……

場所－東京・戸山サンライズ（全国身体障害者総合福祉センター）
東京都新宿区戸山1-22-1 TEL.03-204-3611
日時－1989年9月23日（土）13:00～21:00
9月24日（日）9:00～16:00
主催－障害児を普通学校へ・全国連絡会
東京都世田谷区上北沢4-4-11 TEL.03-303-4739

障害児を普通学校へ・全国連絡会は、9月23日（土）、24日（日）の2日間、「養護学校義務化10年・いま『地域であたりまえに生きる』は……」をテーマに、第四回全国交流集会を開きます。

文部省が養護会校を義務化したのは79年4月で、今年は十年の節目の年です。

十年の間には国際障害者年があり、世界ではノーマライゼーション（非排除）の考えが広く認識され、教育の場でも統合教育が大きな潮流となっています。

しかし、日本ではこうした世界の動きに背を向けるような事態が進んでいます。偏差値偏重、管理教育は障害児らを地域の学校からはじき出し、生きづらいものにしています。福岡では、公立高校の点字受験さえ拒まれました。

交流会では、こうした問題や悩みを語りあい、考えあい、励ましあうような集いにしたいと思っていますので、みなさん、ぜひご参加下さい。

23日は、12時、受付を開始。13時50分から分科会です。テーマは、①生まれてから学校にあがるまで②小学校をどうすごすか③中学校をどうすごすか④特殊学級・養護学校を考える⑤高校をどうするか⑥学校をでてから——働く場・生きる場づくり。18時30分から交流会。

24日は、9時から分科会。テーマは、①義務化10年・いま学校は②できる・できない③つきそい、友だち、先生、近所④交流教育、通級⑤社会で生きる。12時30分から、森毅さん（京都大学教授）の記念講演、全体会です。

会場は、戸山サンライズ（全国身体障害者総合福祉センター）東京都新宿区戸山1－22－1☎03・204・3611

参加費は、2000円（2日間とおし、資料代）、交流会の参加は、2000円（夕食・飲物代）。託児はしませんが、お子さんと一緒に参加して下さい。大人も子どもも一緒に集会をつくっていきましょう。申し込みは、9月15日までにお願いします。

問い合わせは、障害児を普通学校へ・全国連絡会事務局☎03・303・4739　FAX03・304・1857。

茅ケ崎のホタル騒動のその後は

〝ホタルネットワーク〟広がる

6月30日号にのせた〝茅ヶ崎のホタル騒動〟「ホタルの生命を無視していいかしら」を覚えておいでですか。

反対運動や市議会での質問もむなしく、結局、八月四日の「なんでも夜市」にホタルは放たれてしまいましたが、市民に大きな問題を投げかけたと思います。その後の模様を「茅ヶ崎市に公民館をつくる会」機関誌「息吹き」（152号）にのった茅ヶ崎市議・西山正子さんの文章で紹介します。

☆

五時少し前に中央公園に行きますと、まだ日は暑く、夜市の準備をする人が汗をかきかき奮闘しています。見ると、あった、あった。〝ホタル・イベント反対！〟のたれ幕の下で有竹さんたちがホタルの絵をかいたゼッケンやら、Tシャツを着て、立ち働いていました。（中略）…

「ホタルを放つのは八時くらいらしいですよ」と田部さんが言いに来てくださいました。…（中略）…私は、公園の東の方へ飛んで行きましたが、放つのを見ることはできませんでした。そこで、お年寄りの方が「ホタルはどこでしょうか？」と尋ねていられました。「もう飛ばしたそうですが、その辺に見えませんか？」と私は、そばの人が手に持っているホタルを指しましたが、ホタルは弱っているのか、弱い光でまたたくものですから、お年寄りには見えないようでした。「せっかく来たのに」と残念そうに帰られました。

ホタルを放飛するところを見た人に聞きますと、ホタルは風に吹かれて、舞い上がらずに地面に落ちたそうです。それを人々はわれがちに捕えたようです。ホタルにとっては受難ですね。ホタルを取って帰った人に聞きますと、翌日見たら、もう死んでいたそうです。ホタルたちだって、自分の生まれた所で命を終えたかったでしょうに。

「なんでも夜市」はこんなふうにして終わりましたが、ホタルが取りもつ縁というのでしょうか、環境問題を考える人、自然保護運動をやっている人、いろいろな人といろんな出会いを生みました。ホタルについてむやみに殺さないよう条例をつくっている市もあるようです。ホタル・ネットワークを今後に生かしたいと思っています。

社会教育施設ボランティア交流

情報の交換や討論を

充実した可能性求めて

社会教育施設でボランティア活動を行っている方、または関心のある方どなたでも大歓迎します「社会教育施設ボランティア交流会」に参加しませんか。

この集いは、国立婦人教育会館の10周年をきっかけに、同会館のボランティア活動をしている人たちが、全国の教育施設のボランティアに呼びかけてスタートしたもので、今年で三回になります。

「活動の充実」「限りない可能性を求めて」、情報の交換や交流をしましょう。

〈プログラム〉

10月21日（土）14時から＝シンポジウム「ボランティア活動の充実をめざして」…内容は①施設における活動の位置づけについて②ネットワーク作りについて③ボランティアの自主学習について、など。

22日（日）9時から＝分科会…第1「情報に関するボランティア活動」、第2「文化活動」、第3「学習援助に関する活動」、第4「技能提供に関する活動」。11時から、全体会。12時、閉会。

会場は、国立婦人教育会館です。参加費は、一人3000円です。これは通信費、資料代、懇親会の費用とします。旅費、宿泊費（1300円）、食事代は自己負担。

参加希望者は、申し込み用紙を請求して下さい。

申し込み、問い合わせは、〒355－02埼玉県比企郡嵐山町菅谷728　国立婦人教育会館内ボランティアルーム「社会教育施設ボランティア交流会実行委員会」☎0493・62・6711（内）152（但し、緊急の場合以外はなるべく郵便でお願いします）。

また、展示コーナーを設置しますので、活動紹介の資料などがありましたら、お持ち下さい。

老人にドイツ語を教えて

探偵小説を執筆中

八十四歳のご老人が一生懸命、「推理小説ではなくて〝探偵小説〟だ」とおっしゃるのですが、本格的な謎解きの創作をするのが生き甲斐となっているようです。

そのご老人から先日、頼まれごとをしました。

「昔はドイツ語なんかペラペラだったんだ、最近は年のせいで、ドイツ語も忘れてしまったので、あなたのような若い人に教えてもらいたい。次の文章をドイツ語にしてほしい。今書いている探偵小説にどうしても必要なんだ」

とのことです。

その文章とは次のようなものです。

「この穴から射よ、そうすると太陽を見ることができて……」

こちらも学生時代、第二外国語でドイツ語をちょっとかじったぐらいですから、とてもこの文章をドイツ語に訳すなどという芸当はできません。

もし、全国婦人新聞の読者の中で、ドイツ語のお得意な方がいらっしゃいましたら、このご老人を励ますためにも教えてやっていただけませんか。

「直訳でも、下手ないいまわしでも何でもいい。一つの答えではなくて、なるべく何通りかのドイツ語訳が欲しい」

とのことです。そのご老人の住所は、埼玉県秩父市浦山一三九九、鳥居龍男さんです。どうかよろしくおねがいします。

（東京杉並・T生）

差別の本質にせまる

「サムとハロルド」上演

俳優座劇場プロデュース公演

俳優座劇場では、第十八回プロデュース公演として「サムとハロルド」を上演する。

同作品は南ア・ポートエリザベスにある小さな喫茶店を舞台に、政策としてのアパルトヘイトだけでなく、人間の意識の奥にあるアパルトヘイト（差別）にも焦点をあて、アパルトヘイトの本質に鋭く迫る作品で、南ア出身の白人劇作家アソル・フガードの自伝的作品を、西川信廣（文学座）が演出。

物語の舞台となるのは、セント・ジュームスパークにある小さなティー・ルーム。この店で働く黒人ウェーター、サムとウィリーと、店主の息子で十七歳の白人少年ハロルド（ハリー）の日常生活を通して、物語が展開する。

アル中の父をもつハリーにとって、サムは、小さい頃から遊び相手で父親換わり。が、そんな関係も「ボクはお前たちの主人だ。ハリーなんて気安く呼ばないで、ハロルド坊ちゃんと呼べよ」という、ハリーの言葉でもろくもくずれ、白人対黒人という〝関係〟の本質がむき出しにされていく。

二人の黒人ウェーターを演じるのは、内田稔（サム）と外山誠二（ウィリー）。ハリーに中村彰男。

五年前、ロンドンで同作品に初めて出会った、演出の西川は「最初、日本でやることにためらいがあった。黒人役を日本の役者がやっては、異国の単なるお話になってしまうのではないかと。が、最近、同じ作家の作品を日本人のキャストで観てためらいはなくなった」と語る。

フガードの作品を日本で上演するのは、地人会の「こんな話」（'87）と「島」（'88）についで三作目。

公演は九月十三日（水）～二十四日（日）まで、俳優座劇場（東京・地下鉄「六本木」下車、☎03・470・2880）で。

料金は四千円（全席指定）、グリーン・チケット（19歳以下）二千円十百円（劇場前売りのみ）。十三、十四、十八日はハーフチケット・デーで、二千円（劇場前売りのみ）。

※15、16、17、23、24日は昼公演（二時開演）。13、14、16、18～22日は夜公演（七時開演）。16日（土）のみ、昼、夜二回公演。

長寿社会を考える

九月十一日午後二時から、講演とシンポジウム「安心して暮らせる長寿社会へ」が、東京・千代田区霞ケ関ビル33Fの東海大学校友会館で開かれる。

長寿社会文化協会の主催、東京民間救急センターの協賛で行われるもので、刈田嘉彦氏（長寿社会文化協会理事）の「シルバービジネスの新展開」の講演とシンポジウム「在宅医療・ケアはどこまで可能か」が行われる。パネラーは鈴木五郎（全社協総合計画部長）、菱村将隆（医師）、新津ふみ子（訪問看護婦）ら。

問い合わせ　長寿社会文化協会☎03・205・8501

アジア人権講座

第5回『東西関係と人権』

社会主義国の人権問題を私たちはどう考え、どうアプローチすればよいのでしょうか。講座では、「東」と「西」の〝自由〟と〝人権〟について、歴史から学び、社会主義の人権問題への対応を考えます。

とき…9月21日㈭18時30分～20時30分

ところ…東京都中央労政会館・第1会議室（飯田橋セントラルプラザ11階）

講師…江橋崇さん（法政大学教授）

資料代…500円

主催…アジア人権基金設立準備会☎03・266・9471

アーニ出版、性を語る会移転

アーニ出版（代表・北沢杏子）および「性を語る会事務局（アーニ出版内）は、9月18日から、左記の住所に変わります。

新住所＝〒158東京都世田谷区用賀3－5－6　☎03・708・7321　FAX03・708・7325　性を語る会☎03・708・7326

お知らせ

◆天皇制・おんな塾第3期「さまざまな角度から天皇制をとらえる」第1回

日時…9月13日（水）18時～21時　場所…亀戸勤労福祉会館　テーマ…亀戸事件・天皇制・朝鮮人従軍慰安婦　講師…鈴木裕子さん　連絡…天皇制　おんな塾☎03・686・5805

◆国際化時代の食糧問題～過剰と不足のはざまで～

日時…9月13日、20日、27日13時30分～16時　場所…東京都消費者センター多摩東支所（☎0422・21・1860）

テーマ…9／13「日本の漁業と食生活」中央水産研究所・河井智康さん、9／20「バイオと日本の食糧」元農水省農事試験場長、バイオシステム協会所長・川井一之さん、9／27「私達の食卓と輸入食品」弁護士・神山美智子さん　定員…50名（都内に居住か勤務している人）　受講料…無料　申し込み…電話で東京都消費者センター多摩東支所（☎0422・21・1860）

◆NO！寝たきりデー「寝たきり」は「寝かせきり」！

日時…9月14日（木）13時～18時　場所…お茶の水スクエア（A館）ヴォーリズホール（JRお茶の水下車3分）　内容…シンポジウム（13時～15時30分）＝出席・樋口恵子さん（評論家）、大熊一夫さん（「AERA」編集室）ほか　ティーチイン（16時～18時）＝お話・岡本祐三さん（阪南中央病院内科医長）　アートギャラリーで木村松夫さん（フォト・ジャーナリスト）の写真展「母は恋人」を開催（12時30分～19時）　参加費…500円　問い合わせ…私たちのまち宣言－東京・関東圏連続行動実行委員会☎03・234・3907（自治労関東甲地連）

◆あ・そ・ぼ・お・ぜ・女たち‼パーティ

日時…9月15日（金）14時～19時　場所…東中野ポレポレ坐（☎03・371・0005）　料金…3000円（前売り2800円）

男のモノサシにNOをつきつけ、こびない、めげない「女の表現」の場をつくろうと、来年5月27日中野公会堂をおさえました。このパーティは中野公会堂の資金あつめのためのパーティです。パーティ券の半券で来年の公会堂が2割引になりますよ！

連絡先…石橋初子＝0425・51・4702、高田ふみ子＝0422・48・0381（夜）

◆浜田裁判終結報告集会

日時…9月15日（金）14時～17時　場所…鎌倉市勤労福祉会館（☎0467・47・1771）・第1会議室　内容…14年間にわたる医療裁判をふり返る　主催…「浜田さんを支援し医療を考える会」　連絡…〒247鎌倉市大船1479の1西の根荘・杉山方☎0467・44・1436

◆男性日曜セミナー第1回「変貌する社会と男の生き方」

日時…9月17日（日）13時30分～15時30分　場所…神奈川県立婦人総合センター1会議室　講師…社会評論家・赤塚行雄さん　定員…50人　申し込み…電話または直接同センター☎0466・27・2111内線502生活科学部

◆母子家庭のお母さんのための商業デザイン講座・中級・ポップアートコース

日時…9月17日（日）、10月1日（日）、7日（土）、15日（日）、21日（土）、29日（日）、日曜13時～16時、土曜13時30分～16時30分　場所…神奈川県立婦人総合センター第1技能研修室　講師…神奈川新聞社グラフィックデザイナー・新田一樹さん　対象…県内在住の母子家庭の母親30人（先着順）　受講料…無料、但し教材費は実費負担　申し込み…電話か直接、同センター福祉部☎0466・27・2111

◆中国・天安門での虐殺を抗議する集い

日時…9月17日（日）13時から　場所…本田公民館（JR国分寺駅下車5分）　発言者…中国人留学生　内容…日本のマスコミが報道した虐殺が本当にあったのか。むしろ人民軍の方が多く死んだのではないか……　主催…三多摩勤労者講座☎0423・87・0431（黒崎）

◆お茶の水図書館教養の集い

日時…9月19日（火）14時～15時30分　場所…お茶の水スクエアC館3階ホール　内容…講演「森の時間－歌と人生について－」（歌人・前登志夫さん）

入場…無料　問い合わせ…お茶の水図書館☎03・294・2266

◆島本弘子シャンソンリサイタル　フランス革命200周年によせて

日時…9月19日（火）19時　場所…武蔵野市民文化会館小ホール（JR吉祥寺駅北口または三鷹駅北口下車）　曲目「息子達よ、歌いなさい」「バルバラ」ほか

入場料…指定席4000円、自由席3000円、問い合わせ…島本（昼間）☎03・929・8526、武蔵野市民文化会館☎0422・54・8822

◆三里塚・小泉（大木）よねへの代執行を考える

日時…9月21日（木）18時30分　場所…渋谷勤労福祉会館　話…小泉英政さん他、フリーディスカッション　会場費…300円　主催…三里塚の土地収用を許さない首都圏行動☎03・355・4320

◆日本と朝鮮を考える女性の集い

日時…9月22日（金）18時～21時　場所…主婦の友文化センター（☎03・233・1823）　内容…ビデオ「祖国統一の願い」（ピョンヤン学生祭典に参加したイム・スギョンさんの記録）、講演「南北対話と統一をめぐる情勢と日本の役割」中央大学教授・伊藤成彦さん　参加費…500円　主催…朝鮮女性と連帯する日本婦人連絡会（☎03・816・1862）

◆介護技術講習会

期間…9月22日（金）～10月31日（火）10時～15時（21日間）　場所…神奈川県農業会館（JR平塚駅南口3分）　内容…介護の基礎的知識と技術を学ぶ　対象…神奈川県内在住の女性30名　教材費…2000円　申し込み…往復ハガキに「介護技術受講希望」と、住所・名前・年齢・電話を書き〒251藤沢市江の島1－11－1　神奈川県立婦人総合センター婦人労働部へ　問い合わせ…同☎0466・27・2111内線541

◆'89女性問題を考える都民会議〝はじめの一歩〟

日時…9月25日（月）10時～20時30分　会場…朝日生命ホール（新宿駅西口）　基調講演…森英恵さん　シンポジウムⅠ…佐藤洋子、平野真佐子、汐見稔幸、田村純郎、宮田みどりさんら　シンポジウムⅡ…依田早百合、中島通子、井沢満、阿部裕行、佐々木さとみさんら　申し込み先・詳細…東京都生活文化局婦人青少年部婦人計画課☎03・212・5870

◆講演会「学校、子ども、親ーかけこみ塾からの視点ー」

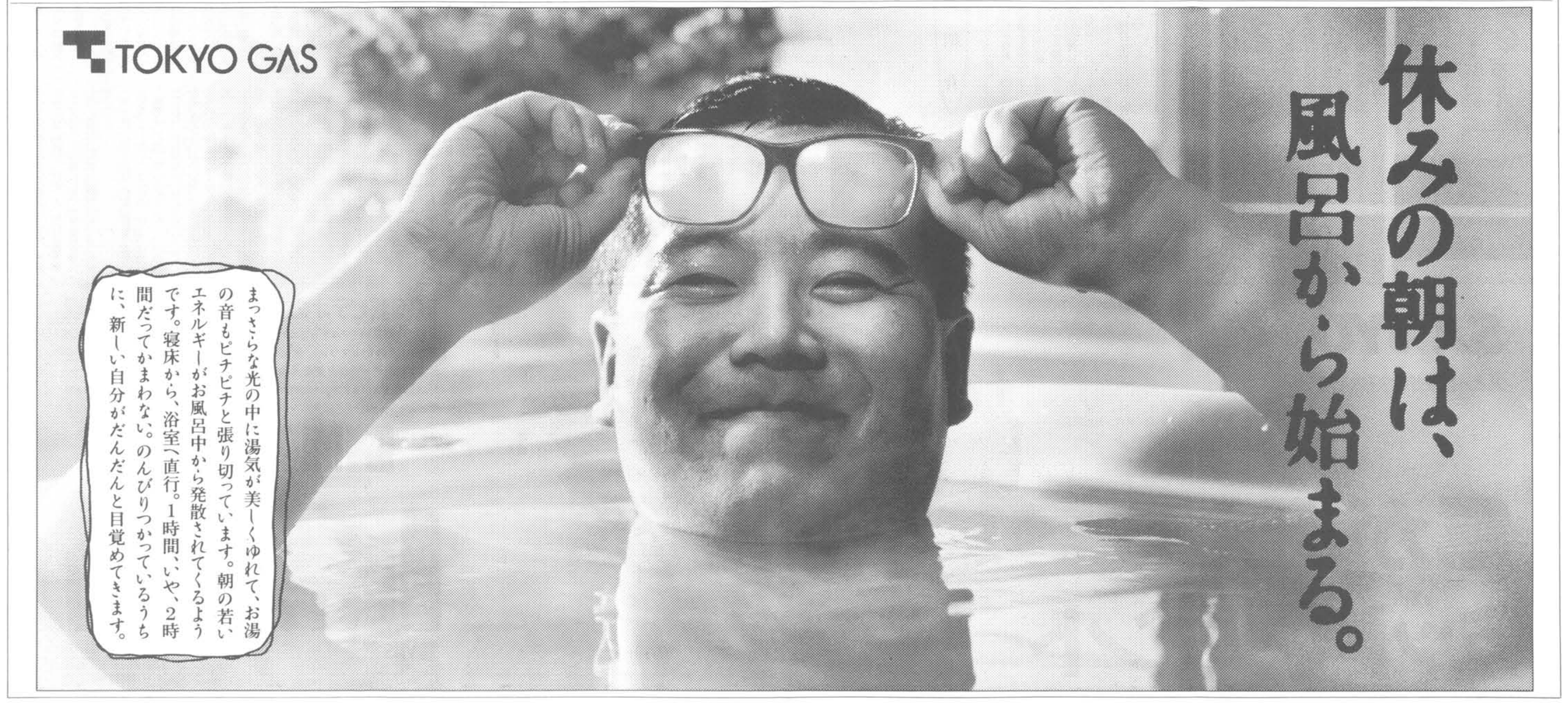
日時…9月26日（火）16時30分～18時30分　場所…東京弁護士会館　講師…「東進塾」経営者・子ども支援塾ネット代表・八杉晴実さん　問い合わせ…東京弁護士会・子どもの人権救済センター☎03・581・2206

◆1989年度東京都・女性のためのリーダー研修「女性問題学習の方法ー実践を可能にする学習ー」

期間…9月26日（火）～12月5日（火）毎週火曜日10時～13時　場所…東京都婦人情報センター　内容…女性問題の解決に向け、地域の学習活動の取り組みを主体的に創っていきたい人のための講座　講師集団…藤村美津さん（平塚幼稚園教諭）、熊谷真弓さん（武蔵大学講師）、村田晶子さん（早稲田大学講師）　定員…50名（全回出席できる人）、先着順　申し込み…ハガキに、氏名・住所・グループ名・電話番号を明記の上、〒100－81千代田区丸の内3－8－1東京都教育庁社会教育部振興課リーダー研修担当宛送付（☎03・211・5111内4451 2）

◆東京・羽村町いじめ裁判

日時…9月27日（水）10時30～12時　場所…東京地裁八王子支部4階大法廷　☆いじめを訴えた石田真一君の母親（石田光江さん）の証言　連絡…石田正男・光江〒190－11東京都西多摩郡羽村町東1の31の1の104


TOKYO GAS

休みの朝は、風呂から始まる。

まっさらな光の中に湯気が美しくゆれて、お湯の音もピチピチと張り切っています。朝の若いエネルギーがお風呂中から発散されてくるようです。寝床から、浴室へ直行。1時間、いや、2時間だってかまわない。のんびりつかっているうちに、新しい自分がだんだんと目覚めてきます。

健全なモラルとマナーを！

屋外・行楽地でのゴミ処理の実態

親の意識と行動が大切

子供たちの反応を探る

日本石鹸洗剤工業会が調査

秋、行楽の季節。しかし、風光明媚な観光地がゴミの山でウンザリした――という経験は、誰も一度や二度はあるのではなかろうか。観光地でなくとも、みんながマナーを守り、快適な環境の中で生活したいと思っているはず。

社会環境を大切にする、社会ルールを守るなどを子供に教えるには、まず親の意識と行動こそが大切だ。親の意識と行動は、それを子供たちはどうとらえ、行動しているのかを、日本石鹸洗剤工業会・クリーンキャンペーン委員会（神沢昭三委員長＝㈱資生堂副社長）が調査している。

一つは、東京都内の小学六年生百人を対象にアンケートした『ごみの投げ捨て等の実態と意識』で、もう一つは日曜日の動物園の屋外休憩所での観察実態調査『行楽地でのごみ処理』だ。

『ごみの投げ捨て――』では、「外に出かけた時でたごみは、どうしたらよいか」の質問に、「すべて家に持ち帰る」か「ごみ箱に捨てる」べきが八一・三%。反対に、「何でもその場に捨ててよい」と思っている子供は二名しかいなかった。しかし、「人が見ていなければ」や「小さな物なら」などの条件つきに

クリーンキャンペーン

なると、特に男子の中に五、六名いた。が、全体的に意識の上で子供たちは健全なモラルを持っていると言えよう。

では、実際の行動がその通りに行われているかというと、意識と行動に大きな差があることが分かる。

自分でお菓子やジュースを買って食べたが、近くにはごみ箱がない場合どうするか、では五〇%の男子が「その辺にする」と答え、「小さな物ならその辺にすてる」と合わせると六七・四%にもなる。女子の方は、両方で三五・五%、男子の約半分強だ。特に缶ジュースの空き缶の場合、女子は「ごみ箱を探して捨てる」七七・八%、「家に持ち帰って捨てる」六・七%で、八四・五%がきちんと処理している。全体的には、大きなごみより、お菓子の包み紙やプルタブ（缶ジュースなどの口金）はどのように、小さな物が無関心に投げ捨てられていることが分かる。

子どもが見た親たちのマナーはどうか。

「親が歩きながらごみを投げ捨てたのを見たことがあるか」では、母親の投げ捨てでは五〇%の子どもが見ていて、最も多いのが〝たばこ〟の吸いがらだ。小さいごみとはいいながら、親自身がごみを投げ捨てているせいか、子どもの投げ捨てに親はあまり注意をしていない。男女計で三六・三%の子どもしか注意をされた経験がない。もっと大人の注意が必要だ。その前に親自身の意識が必要だといえまいか。

『行楽地での――』は、大人と子どもが一緒のグループが一三六組、大人だけのグループが六二組、子供だけ（中学生）のグループが二組、計二〇〇組を観察。

二〇〇組のごみが処理方法を大まかに分けてみると、「持ち帰ったグループ」が一組、「ごみ箱へ捨てたグループ」一八三組で九二%までが自分たちのごみをきちんと処理している。両方ともに該当しないグループは一六組で、ごみ箱に捨てた以外に小さなごみをテーブルの上に置いたままにする、風に飛ばされるなどとしたり、テーブルの下に落ちたごみを拾わず行ってしまうのが、子連れグループに多い。また、たばこの吸いがらの投げ捨てがかなり多く、喫煙者が灰皿のない場所でたばこを吸った後の処理の仕方は、ひとつの課題だ――と同委員会は言っている。

藍と水と情熱の祭典

文化・産業アピール

徳島市のイベント　二十一世紀へ向けて

ことし、全国で三十九の市が市政百周年をむかえ、各地で地域の独自性をいかしてのイベントが行われている。

その一つ、四国・徳島市（三木俊治市長）でも、記念イベントとして「藍と水と情熱の祭典」を展開している。

同祭典は、「藍でつくる二十一世紀ー藍のニューヨークファッションプレゼンテーション」、「光と水でつくる二十一世紀ー光と水のシンフォニー」、「二十一世紀へのメッセージータイムカプセルとくしま」の三本だて。

特に、「藍のニューヨークファッションプレゼンテーション」は、徳島が育んできた文化・産業の象徴とも言うべき「阿波藍」をテーマに、同市の国際性、未来性、ファッション性を国内外にアピールしようというものだ。

ここでは、「藍のデザインコンクール」「とくしまフォーラムー伝統と未来の融合」「藍のニューヨークファッションショー」の三つのイベントが組まれ、藍染めを素材に、ニューヨークの五人の女性デザイナーが、各二十点ずつ、合計百点の作品を披露する。

五日、東京・原宿クエストの「とくしまフォーラム」では、同祭典の総合プロデューサーの鈴木健二さんの記念講演と、ファッションジャーナリストの大内順子さん、デザイナーのサリー・ビアーズさん、シルビア・ハイゼルさん、市原真知子さん、ダイアン・パーネイさん、イザベル・トリードさん、作家の新井満さんが「藍ファッションの未来性と国際性」をテーマに、「藍」という素材をキーワードにして、伝統に内在する未来性と可能性を語り合った。

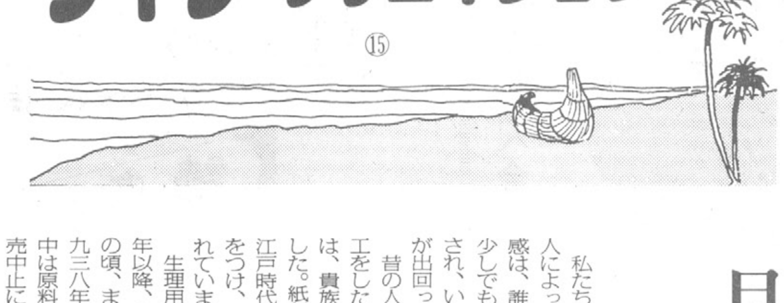
その中で、新井さんの「藍にパスポートはいらない。なぜなら、藍は、水の惑星・地球の色だから。ガガーリンは、きっと天然の藍の水の色をたたえた、地球を見たのではないか」と話し、「いま、注目されているということは、失なわれつつあることで、それだけ自然なものが失われている、困った環境になっているのだなと思う」のことばに、みんなうなずいていた。

会場には、自ら藍染めの帽子Tシャツ姿という女性参加者もいて、藍染めの根強い人気が感じられた。

なお、このフォーラムは、東京のほか、地元・徳島でも開催。翌、六日には、ニューヨーク・デザイナーたちの力作が同会場で披露された。

ライフ・クリエイション

⑮



さまざまな生理用品

目的に合わせ快適に

不快感を軽減させよう

私たち女性特有のものに、生理があります。人によって違いはあるものの、生理中の不快感は、誰しも感じることです。この不快感を少しでも軽減させようと、いろいろな工夫がされ、いまでは、さまざまな種類の生理用品が出回っています。

昔の人は、布や、布にコンニャクで防水加工をしたものを使っていました。平安時代には、貴族は絹、庶民は麻をあて布にしていました。紙が使われだしたのは、平安末期から。江戸時代の初期には、遊女たちが海綿にヒモをつけ、タンポンのようにして使ったと言われています。

生理用ショーツが出現したのは、一八九七年以降、ナプキンの原型は、第一次世界大戦の頃、また、日本で初めてのタンポンは、一九三八年に発売されました。第二次世界大戦中は原料の綿が不足したため、タンポンは発売中止になり、古いゆかたやガーゼを何度も洗っては使いました。

こうした、昔の女性たちの生理用品を知ると、今では、ほんとうに便利になりました。経血の量や、生活サイクルに合わせたものなど、快適にすごすための選択肢がいろいろとそろっています。

まず、生理用ナプキンに要求されるのは、吸収力の良さです。最近では、これに加え、使用感の良いものができています。これは、吸収力のすばやいクラッシュパルプと、吸収力・保血力にすぐれたポリマーの良さを合わせもった素材を使っているためで、表面では面積を小さく吸収、吸収した後は、裏側へ押え込みます。

生理中に気になるニオイは、活性炭素繊維と高分子吸収体を使った、デオドラント効果のあるもので、解消できます。

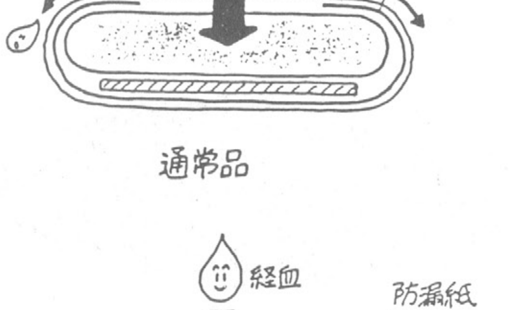
激しい動きにも対応できるスポーツ用のナプキンもあります。普通のナプキンは、巻き上げタイプの防漏紙でしたが、これをポケット型にすることで、経血の横モレを防ぐのです（イラスト参照）。

睡眠中、うしろ側にもれる心配も、夜専用ナプキンで安心です。サイズが大きく、うしろにも長くなっています。

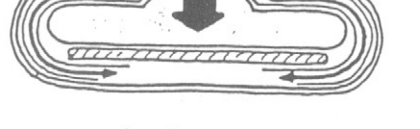
海水浴や水泳の時は、タンポンが便利です。女性の身体を人間工学の面から研究し、使用中の違和感をなくしました。また、手のひらサイズでコンパクト。かさばることがありません。

いろんなタイプの生理用品、目的に合わせて使い、快適にすごしたいものです。

（資料提供　ライオン株式会社）



通常品



エルディ For Sports

女の目で視る⑤

「私の中のもうひとりの私」

（アメリカ映画）

ウディ・アレン脚本・監督の「私の中のもうひとりの私」は〝これまで信じていた人間とは違う真実の自分を発見する〟一女性の心理ドラマという紹介だった。ウディ・アレンは、いま最も現代的な映画作者とか神経症的喜劇映画作者などと言われているが、この映画も深刻めかした喜劇なのかもしれない。しかし、それにしては面白味がなく、思いつきばかりが目立ち、いかにも頭で作ったドラマという印象だった。

五十歳になった哲学者、マリオンは、これまでの自分の人生に自ら合格点をつけ、新しい結婚の相手も得たばかりのところである。マリオンの前夫は学校の恩師だったが、再婚の相手は外科医だ。だが、この夫は前妻を捨ててマリオンと結婚したが、大学教授を妻としていることが自分の勲章というような男だ。

マリオンという女は、知的で冷静であることをモットーとしてきたから、向上心ばかりで感情は心の底に封じ込めてきた、という設定である。それが他人の悩みを耳にしたことから、ホントの自分は昔から男の気を魅く存在であり、情熱的な人間なのだとつぜん気づく。ラストで、激しいキスを交わした夫の友人を思い浮かべながら、マリオンの顔が初めて明るく輝くのだが、周囲の人間にも目を向け自分の心も解き放てば、これからの人生は楽しくなるというのがメッセージらしい。

それとも、男と同じように人生の成功などを目ざすインテリの女は、終始楽しそうでないマリオンで表わしたように、幸せになれないと皮肉っているのだろうか。

情熱的なアナザー・ウーマンを解き放ってほしいというのが男の願望だというならわかるが、〝理知的な女〟は人格を変えなければ愛情も思うにまかせないと、まさかアレンは思い込んでいるのではあるまい。

「性と愛を分離することも、自分の性を部分化することも、複数の異性を同時に愛することも、男なみに、女もできる」『〈私〉探しゲーム』上野千鶴子（筑摩書房）より。

鈴木　陽子

緑化運動の標語を募集

首都緑化推進委員会（後援・東京都）は、「第18回緑化運動標語」の応募を呼びかけている。

標語の内容は、環境緑化、森林愛護ならびに自然保護など、主に緑（樹木）の保護と回復を呼びかけることをテーマにしたもので、模倣でないものを。

応募の方法は、「緑化運動標語」として、官製ハガキに標語を記載し、応募者の住所、氏名、年齢、職業（学生の場合は学校名、学年を）、電話番号を明記のうえ郵送する。応募資格は、東京都内居住者、都内の学校に在籍する人。

募集期間は、10月1日～10月31日まで（当日消印有効）。

送り先、〒100―81千代田区丸の内3―8―1（都庁第三庁舎）東京都労働経済局農林水産部林務課内「首都緑化推進委員会」へ。☎03・212・5111（内）31854

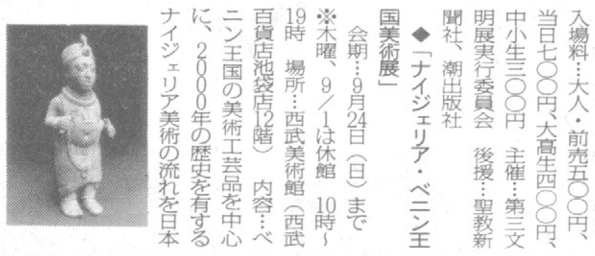
審査結果の発表は、12月中旬予定。小・中学生の部、一般の部とに分け、いずれも入選一席・一点、二席・二点、佳作・若干点。

優秀作品は、同会が行う緑化運動の普及および推進用の標語として使用する（著作権は総て同会に帰属する）。

新製品紹介

〝本格的な３Ｄ方式〟

ＣＤラジカセＲＣ―Ｘ50



日本ビクター（株）では、このたび、ダブルカセットメカと重低音〝GホーンEX〟を登載したCDポータブルシステム「RC―X50」を新発売。

同製品は、CDラジカセの普及価格ゾーン―四万円台でありながら、低域専用アンプとスピーカーを持った、本格的な3D方式〝GホーンEX〟と、ユーザーニーズの高い〝ダブルカセット〟を登載。このほか、VHF音声多重対応の3バンドチューナー、留守録・目覚まし再生、スリープと便利なタイマー機能なども装備している。

ビクター・CDポータブルシステムシーディアン「RC―X50」標準価格四万四千八百円。

美容

楽しみながら染める

専用の洗髪剤を使おう

〝老い〟の象徴ともいえる白髪には、それなりの魅力もありますが、女性の場合、どうしても高齢に見られやすいもの。そこで、自分で手軽にできるヘアーカラーについてお知らせします。

皮膚や毛髪の色はメラニンの多い少ないによって決まるものです。

老年になると、細胞の活動が鈍くなり、皮膚組織にはりめぐらされている循環系統も動きが遅くなります。従って、血行がゆるやかになり、皮膚に供給される血液の量が減少するので、栄養補給が不十分になり、色素を構成するメラニンの量も減少して毛髪が退色していくのです。

家庭でのヘアーカラーは、取り扱いが面倒と感じている人が多いようです。でも、最近では、水で練るだけで染められる、一剤式の染毛剤が市販されるようになり、大変、使いやすくなっています。これまでの二剤式と違って、必要な量だけ使えて残りは保存できるので経済的で、部分染めにも便利です。アンモニアを含まないので臭いもほとんど無いという長所もあります。

ヘアーカラーは、一カ月に一回の頻度が目安。体調の良い時を選び、楽しみながら染めましょう。

きれいに染め上がった髪の色やつやを保つには、ヘアーカラー専用のシャンプーとリンスで洗髪を。さらに週二、三回位トリートメントをすると、髪のつやが増し、顔の表情も明るく見えます。

メイクアップや装いにも積極的に明るくきれいな色をとり入れ、軽快な雰囲気を出しましょう。

（資料提供・カネボウ化粧品）

てんらん会

◆「第21回第三文明展」

会期…9月25日(月)まで8時30分～17時※受付は16時30分まで　場所…富士美術館（静岡県富士宮市☎0544・58・2550）内容…第三文明は、毎年一回開催する公募展で、日本画、洋画、彫刻、工芸、書の五部門で構成するコンクール。今回は、出品点数三三七点。入場料…大人・前売五〇〇円、当日七〇〇円、大高生四〇〇円、中小生三〇〇円　主催…第三文明展実行委員会　後援…聖教新聞社、潮出版社

◆「ナイジェリア・ベニン王国美術展」

会期…9月24日（日）まで　※木曜、9／1は休館　10時～19時　場所…西武美術館（西武百貨店池袋店12階）　内容…ベニン王国の美術工芸品を中心に、2000年の歴史を有するナイジェリア美術の流れを日本で初めて紹介。開催記念講演会「アフリカの音と形」、開催記念「ナイジェリア音楽公演」有　入場料（美術展）…一般1000円（800円）大・高生700円（500円）、中・小生400円（200円）（）内は前売り・団体20名以上料金　主催…㈳アフリカ協会、西武美術館、国際交流基金、朝日新聞社

◆旅への誘い展―ルィ・ヴィトン・コレクションを中心としたヨーロッパ500年の旅行スタイル

会期…9月28日（木）～10月10日（火）　場所…西武百貨店渋谷店B館8階・Bフォーラム

内容…昨年、パリ・ルーブル美術館で開かれた「L'Invitation au Voyage ― Autour de la Donation Louis Vitton」を日本向けに再構成、ヨーロッパ500年の旅行スタイルを紹介　入場料…一般700円（600円）、大・高生500円（400円）、中・小生300円（200円）（）内は前売り・団体20名以上料金

SANYO
人と・地球が大好きです

Sが冴える
世界初。
ミッドマウント

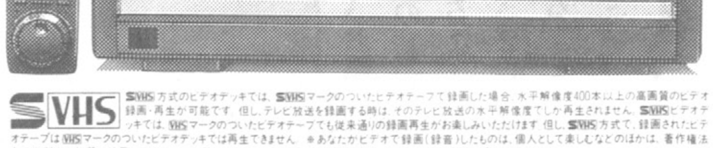
電源部
テープ走行メカニズム
回路ブロック

※S-VHSビデオで初めてのセンターカセット、ミッドマウント方式。

高画質ビデオのための安定走行を実現
ビデオの心臓部であるテープ走行メカニズムを中心にして左に電源部、右に回路ブロックのミッドマウント。画面のユレを表わすジッター値を0.07%以下に（SP自己録再（当社測定値））抑えました。テープの安定走行の理想を追求した高画質構造です。●色ダレ・ドット妨害を抑える3ラインロジカルコムフィルタ●編集で便利なジョグ・シャトル
サンヨーS-VHS Hi-Fiビデオ VZ-CS50(K) 標準価格175,000円（税別）（ワイヤレスリモコンつき）

MID・MOUNT
Resonance-free design

HIGH SPEED, FULL-LOADING



S-VHS
三洋電機株式会社